

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773801341		
法人名	医療法人 百賀 時の会		
事業所名	グループホームくすのき苑(檜)		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府羽曳野市古市5丁目5番13号		
自己評価作成日	令和7年1月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との災害時相互支援協定を結んでいる。災害時に地域高齢者の受け入れや3日間分の備蓄食料・オムツ等を備えている。</li> <li>・したい時にしたい事が出来る様にあえてタイムスケジュールを決めていない。出来る家事等については無理のない範囲で行えるようスタッフの声掛け・見守りの下で行っている。</li> <li>・スタッフお互いの意見が言いやすい環境作りに努めている。年齢の差や経験年数により意見の違いがあっても情報共有する事でスキル向上に繋げている。</li> </ul>
--

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2773801341-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2773801341-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に根ざした医療と介護の提供を目的として運営している医療法人が開設したグループホームです。法人名「百賀 時の会」に込められた『『百』歳まで元気に、生きる『賀』び(よろこび)』を感じていただきながら過ごすの思いに沿って、その『時』をサポートしています。開設時から地域との交流に積極的に取り組み、町内会に加入し地域住民や近隣の保育園との交流があります。どんなに重度の認知症の方でも受け入れ関わってきた実践力からは、職員の認知症ケアの質の高さが伺えます。日常の食事はクックチル(湯煎で温めて提供)を利用し、おせちを始め行事食は手作りです。また毎日、職員が工夫して作るおやつも、利用者に喜ばれています。開設から20年目を迎えていますが、ホーム内は清潔できれいな空気を感じることができます。チームワークのよい職場環境の中、「認知症のもたらす利用者のハプニングも否定しないで笑いに変わる毎日」と楽しそうに語る施設長や職員の言葉に、心安らかに過ごす利用者の暮らしがうかがえるグループホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の宣言をフロアに掲示している。職員の意識を高める理念を念頭に置き実践に繋げている。	法人の理念の下で「①お客様との信頼関係を築き、寄り添うケアを行います。②地域に密着し、温もりのあるサービスを行います。③その人らしい生活の援助を行います。④スタッフの熱い想いが活かせる職場を目指します。」の宣言を掲げ、職員間で共有して実践しています。理念は各フロアに掲示し、日常的に確認しています。施設長は、その人らしい生活の実現のために、「利用者一人ひとりの情報の共有」と「どうしたいのか想像すること」の大切さを職員に伝えています。	開設から20年目に入り、令和8年2月には20周年の記念を迎えます。これまでの実践を振り返り、今後に繋げる意味でも20周年記念の取り組みを検討されてはいかがでしょうか。家族や地域のさらなる理解と応援ともなることでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になった為地域行事への参加やボランティアの受け入れ等も再開を予定している。	開設時から地域との交流に積極的に取り組み、町内会に加入し地域住民や近隣の保育園との交流があります。ホーム内には園児たちから贈られた作品を展示しています。町内会の溝掃除には職員が参加しています。だんじりがホームの前に止まった時は涙を流して喜ぶ利用者もいました。3月には地域会館の春の集いに参加する予定です。地域の方に寄贈してもらった大きなひな人形と五月人形の飾りは毎年利用者が心待ちにし、楽しんでます。正月には向かいの方からミカンを大量にもらいました。施設長は地域住民からの応援に感謝し、利用者支援の原動力のひとつにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の介護についての困りごとや、わからない事等、相談を受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も再開され、2か月に一度会議を実施している。参加者からの評価や助言を受け運営や現場でのサービス向上に活かしている。	家族、市職員、区長、民生委員、介護相談員、知見者等の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。会議で地域の行事等の情報を得ることができ、3月の春の集いへの参加を企画することができました。会議はホームからの報告に重きをおくのではなく、参加者から意見が出しやすい場になるよう配慮しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム部会に参加し交流も図っている。運営に関しても連絡報告相談も行っている。	市職員からは運営推進会議に出席の際、事業所運営や利用者支援について助言を得ています。市内グループホーム部会にも参加し情報交換をおこなっています。コロナ禍で中止していた、部会での利用者同士の集い「にじの会」も再開が決まりました。市からの介護相談員も受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。フロア入り口は施錠しているが利用者の希望時には開錠を行っている。身体拘束をしないケアの研修を実施し、参加できなかった職員には資料配布や伝達を行っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回実施し、身体拘束予防について話し合っています。虐待や身体拘束に関する研修も実施しています。また、年に1回セルフチェックを行い個々で振り返っています。ホーム前道路の交通量が多いので、玄関は安全を考慮し施錠していますが、利用者の外出したい様子を察知したら、職員がさりげなく声掛けして付き添うなど、自由な暮らしの支援に努めています。施設長は、職員に関心を寄せ、話がしやすい雰囲気や大事にし、職員のストレスが溜まらないように配慮して見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し虐待はどのようなものなのか理解を深める為意見交換を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修を実施し成年後見制度等の理解を深め、個々での必要性があればご家族様等に情報提供も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書に基づき説明を行い、ご家族様の悩み事や希望等傾聴し理解して頂ける説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族等から上がった意見は全体会議や朝礼等で情報共有をし、意見に関しては出来る範囲で反映する。	コロナ禍では面会は制限していましたが、現在は予約制で居室で行っています。職員は、家族が面会に訪れた際や介護計画の作成時には利用者の日々の様子を伝え、家族の意見や要望を聞く機会を持っています。また、近況報告と写真を毎月家族に送付しています。元利用者の家族は、ホームのプランターの花の世話を今でも続けてくれており、利用終了後の家族とのつながりも大切にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案があるか投げかけ日々情報収集をしている。月一回開催している会議で職員より検討案を事前に書面でも提出してもらっている。	毎月の全体会議で、業務連絡・業務改善の検討、利用者一人ひとりのカンファレンス等を行っています。会議以外でも自由に意見が言える雰囲気があります。職員の年齢層が広い職場ですが、お互い分かり合え、人間関係は良好でチームワークのよい働きやすい職場環境は、職員の定着に繋がっています。職員は自分が働くホームを「言いたいことが言える。陰口を言わない職場」と自慢に思っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の中で意見を聞き取り環境の整備に努めている。非常勤スタッフについては個々の働ける条件に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月苑内研修を行っている。研修で得たものを職員間で情報共有しスキルアップに繋げている。外部研修については人員の確保が出来ない状況の為参加出来ていない。スキルアップの為の資格取得についてはバックアップ制度を利用する事が出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣のグループホームスタッフとの交流会や勉強会に参加し情報交換を行っていた。感染防止の為開催を中止している状況で再開した場合は参加を予定している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを図り得た利用者の情報をスタッフ間で周知情報共有している。安心して頂けるよう利用者様の声に傾聴する様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時や入居時に家族様の思いや不安な事等無いか確認を行っている。入居後の不安を少しでも解消出来る様定期的に連絡を取る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスについて家族様や本人と話し合い、要望があれば、必要に応じて他のサービスについての説明や紹介を行い、安心して頂けるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図りながら利用者の残存機能を生かし、日常生活の中で個人が出来る作業を取り入れ、職員と一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の様子を、家族様に面会時や手紙、電話等で報告し、利用者様を共に支えていけるよう情報共有し、相談や意見の聴取を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼馴染や知人との連絡や面会にも対応している。遠方の親類等への手紙の投函等も支援している。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者に大切なことと理解し、支援に努めています。友だちの訪問があったり、自宅に泊まる利用者もいます。年末年始には複数の利用者が外泊しました。家族と福岡へ10日間旅行した利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフを交えながら、利用者様同士の交流の場をつくり、コミュニケーションを図りやすいよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にも、「困ったことがあればいつでも相談に来て下さいね」等声掛けを行い、必要に応じて対応し相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方に寄り添い、可能な限りその暮らし方に近づけるよう努めている。意思表示が困難な方には以前の暮らし方を家族に聴取し、その方の暮らし方を取り入れ支援する。	ホームの宣言の一つに「お客様との信頼関係を築き、寄り添うケアを行います。」を掲げ、利用者に寄り添い、思いを聞く姿勢を大切にしています。日常の関わりの中での気づきや発見を職員間で共有することや家族への聴き取りからも利用者の思いや意向の把握に努めています。施設長は利用者の思いや意向の把握のために「想像することの大切さ」を職員に伝えていきます。認知症による様々なハプニングも「否定しないで笑いに受け止め、ここでだからこそ経験できる出来事」と語る施設長や職員言葉に、認知症への理解と愛情が溢れています。	利用者の毎日は丁寧に記録されていますが、日常の関わりの中での「発見や気づき」をより丁寧に記録に残されることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様とコミュニケーションを図る中で、どのように過ごされていたのか聴取し把握に努めている。聴取出来ない方は家族様に聴取等を行い把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	メンタル面や身体機能などを様子観察し、変化があればスタッフ同士、情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について本人・家族・スタッフと話し合い情報収集し、可能な限り反映させ現状に合った介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは3か月毎に行い、状態に変化があれば随時更新しています。サービス内容が具体的で、利用者の暮らしぶりが浮かぶ介護計画です。施設サービス計画実施状況一覧表に、サービス内容に沿ったケア内容が書かれ、毎日チェックしています。計画作成担当者は、「利用者が暮らす中で笑顔になれること」に主眼を置き計画作成にあたっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、利用者様の様子や変化、情報共有の必要な事等、個人記録に記載。対応についての申し送りを行っている。必要に応じて話し合いをし、新たなケアの実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに応えられるよう、その都度確認し、出来る範囲での支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類になったのを機に、近隣の保育園との交流会や自治会の行事にも参加する事ができ、今後も豊かな暮らしに繋がるよう支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回主治医の往診が来苑し情報を共有している。緊急時には24時間オンコール対応、必要に応じて専門医の受診が出来るよう支援している。	協力医療機関による訪問診療は週1回、訪問看護は週2回です。希望があれば入居前からのかかりつけ医への受診も可能です。眼科の訪問診療や歯科の口腔ケアも全員が受けています。救急急変時も、24時間連絡可能です。法人母体の透析クリニックで週3回透析治療の利用者は、医療機関の送迎バスで通院、職員が同行しています。また、外泊の際にも、宿泊先の医療機関と連携して、無事家族と楽しむことができました。研修会も随時実施しています。感染症対策を振り返り、より良い支援に繋がりたいと考えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回来苑し利用者様の健康状態を確認して頂いている。利用者様全員の状態を伝え、週一回のドクター往診をスムーズに受けられるよう看護師からドクターへ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、利用者様の状態を詳細に伝え情報共有している。又、入院中の利用者様に変化があれば情報を頂けるよう声掛けを行い、退院時についても連絡を頂き情報共有できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた方針について、ご本人・家族様から希望を伺い、苑として支援できる事を説明し、ご理解して頂けるよう話をしている。利用者様の状態変化に伴い、改めて終末期の方針について確認を行っている。	入居時に、「重度化や、緊急時について」本人や家族に説明し、「意思確認書」を交わしています。日常生活への影響を考慮してホームでの看取りは行っていませんが、段階に応じて家族と相談、意向確認をし、法人母体の医療機関と連携してそれぞれに最適な対応をしています。重度化時にも五感を大切に、日常生活を感じる事ができる工夫もしています。終末期間際まで、ホームで過ごした利用者もいました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や応急手当が迅速に対応できるよう内部研修を行っている。研修ではロールプレイングを行い、緊急対応が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修を行いスタッフ全員が安全な行動・対応について理解する様に務めている。年2回避難訓練を行っている。	利用者も参加の避難訓練を年2回、内1回は消防署立会いの下実施し、報告書を提出しています。発災時の対応マニュアルを作成、アナウンスの内容は、具体的な言葉を明記しています。「緊急時連絡網」は、関係先別に作成して事務所に吊るしています。町会と「災害時相互支援協定」を結び、地域の災害時の受け入れや、救助支援協力体制を構築、協定書も交わしています。災害備蓄品の保管管理の為に1室を確保し、自然災害用と感染症対策用に分け、品名を添付しています。研修会を実施して報告書も作成しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様との会話や日々の中で、個人の尊厳を尊重し、楽しく会話ができるように心掛けている。声のトーンや言葉遣いにも気を付けながらコミュニケーションを取っている。	個人の人権やプライバシーを尊重する支援に努めています。一人ひとりの人格を大切に言葉かけに配慮しています。利用者が、「一人になりたい時」の思いを大切にすることも支援しています。不適切な対応に遭遇した場合、施設長は、それとなく助言しますが、職員間でも、積極的に声をかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援で意思表示困難な方の場合など、家族様等に以前の生活状況等聴取し、利用者様の希望に添えるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいのか希望を聞き、その方のペースに合わせる様にしている。拒否等あれば時間を置くもしくは対応するスタッフを交代する等行い本人の希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にはスタッフと一緒に着る服を選んで着て頂くようにしている。身だしなみについては出来る範囲で利用者様にして頂くように声掛けを行い、出来ていない所等は支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の際には利用者様の要望なども取り入れ、食事を楽しんでいただけるよう支援している。おやつも手作りにこだわり提供している。片付けでは下膳のお盆を拭いて頂いたり、テーブル拭き等を一緒に行っている。	3食共、主菜副菜は業者のクックチル(湯煎で温めて提供)を利用、主食と汁物は職員が調理して、利用者の口腔機能に合わせた食事形態で提供しています。一日の3食のメニューを分かりやすく掲示し、メニューの説明をしつつ、安心して食事ができるように支援しています。利用者はテーブル拭きなど、出来る事を手伝います。毎日の手作りのおやつは、楽しみの一つです。また行事食を工夫し、お正月は職員手作りのおせち料理で祝います。見た目を大切にカラフルに盛り付けした料理は食の楽しみに繋がっています。屋上でのバーベキューや茶話会を楽しんでいましたが、現在は中止しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたチルド食を利用している。食事・水分摂取量等、チェック表に記入し、利用者様情報としてドクターにも報告を行っている。又、嚥下困難な方にはミキサー食やとろみ剤を使用し、食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。個々に応じて声掛けや仕上げなどチェックを行い支援している。又、定期的に歯科往診があり歯科衛生士による口腔ケアと助言を頂き日々のケアに活かしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の間隔等を出来るだけ把握し、排泄の失敗に繋がらないよう配慮している。個々に合わせた誘導支援を行っている。	介護度が高くなり、紙パンツやオムツ着用の利用者が多くなっていますが、座位保持可能の利用者には、排泄パターンを把握し、それとない声掛けで、トイレ誘導をしています。夜間は随時オムツ交換をしていますが、睡眠の妨げにならないように、個々のリズムに合わせて対応しています。広いトイレが3か所あり、分かりやすく表示しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために水分摂取量のチェックや運動への働きかけ等行っている。朝食後にはトイレに座って頂く事で、排便を習慣付けられるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の健康状態等を把握し、出来る限り個々の希望に添って入浴を行っている。	入浴は、週2回、午前・午後を選ぶことができ、曜日や時間を決めず、柔軟に対応しています。オイルヒーターやハロゲンヒーターで、ヒートショック予防の対策をし、家庭的な浴室には、滑り止めマットを敷き、手摺りやシャワーチェアを備えて安心安全に入ることができています。好みのシャンプーやボディソープを使う利用者は多く、浴室に個々のシャンプーを並べ、入浴介助に取り組んでいます。一人の利用者とゆっくり関わることができる入浴時間は、より深い理解を得ることができる大切な機会となっています。無口な利用者がよく喋ったり、鼻歌を楽しむ利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで過ごされている際に傾眠がみられる場合は、声掛けを行い居室で休んで頂くようにしている。就寝の時間もこちらが決めるとはせず、ご本人の休みたい時間に就寝して頂き、朝まで快眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人別にファイリングしており、直ぐに確認出来るようにしている。薬変更等があれば状態観察し情報収集を行い、往診時等報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方にはスタッフと一緒に洗濯物畳み・シーツ交換・配膳やお盆拭き等、コミュニケーションをとりながら楽しく実施している。気分転換で東屋に行き、日光浴や体操・会話等を楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防も配慮し、利用者の希望をなるべく叶えるようにしている。今後、ショッピングモールへの外出を予定している。	外出の機会を徐々に取り戻しつつあります。外気浴を兼ねて、近くのお不動さんへのお参りや、河川敷での散歩をしています。ベランダで、家族との会話も楽しんでいます。利用者の介護度が上がる中、一人ひとりに沿ったレクリエーションを提供できるように工夫しています。インストラクターによる体操を週1回実施、機能保持に努めています。地域の行事参加など、外出の機会を増やしていきたいと考えています。	下肢筋力の低下予防の為に、今後は外出の機会を増し、閉塞感のない暮らしができることを期待します。「行事実施計画書」の中に、「外出」などの項目を設け、利用者毎の様子や気付きを記録されてはいかがでしょうか。より良い支援に繋がる事を期待しています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に家族様に行って頂いている。外出の機会が無い為通院時は出来る限り、ご本人に支払いをして頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は好きな時間に電話をされている。家族等からの電話の取り次ぎや届いた手紙などの代読、手紙、ハガキのポスト投函等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは季節を感じて頂けるよう壁飾りを作成している。室内温度等にも配慮し、定期的に温度調節なども行っている。歩行経路には物を置かないよう心掛けている。	玄関までの長いアプローチには、幾つものプランターの花が楽しめます。掃き出し窓から射す陽が明るいリビングは広く、キッチンで調理する職員の姿を見ることもできます。幾つものテーブルの横には、複数のソファを設え、テレビを見たり、利用者同士、語らいを楽しんだりしています。季節の飾り物や、利用者の写真、利用者の願い事が書かれた短冊、保育園児から贈られた貼り絵も掲示しています。1階の壁面には、大きな木のオブジェが施され利用者は季節毎の花を飾り、楽しめます。日常の暮らしに配慮し、心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の気分に合わせてお好きな場所で過ごして頂いている。フロアや廊下などにもソファを配置し、くつろげる様な空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を設置し、自分の居場所とさせて頂けるようにしている。自室が心地よく過ごせる空間である様に工夫している。	花の絵が添えられた表札は分かりやすく掲げられ、元英語教師の利用者には、アルファベットで表示もしています。居室にはベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、カーテンを設置、利用者は馴染みの物を持ち込んでいます。仏壇、使い慣れた小物入れ、テレビを備え、家族の写真を掲示した部屋もあります。机の上に、詩集や日記帳を置く利用者もいます。危険なもの以外、持ち込みは制約せず、安心して過ごせる居室作りを大切に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが利用者様一人ひとりを把握し、居室内の家具の配置等を安全面に配慮している。出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		